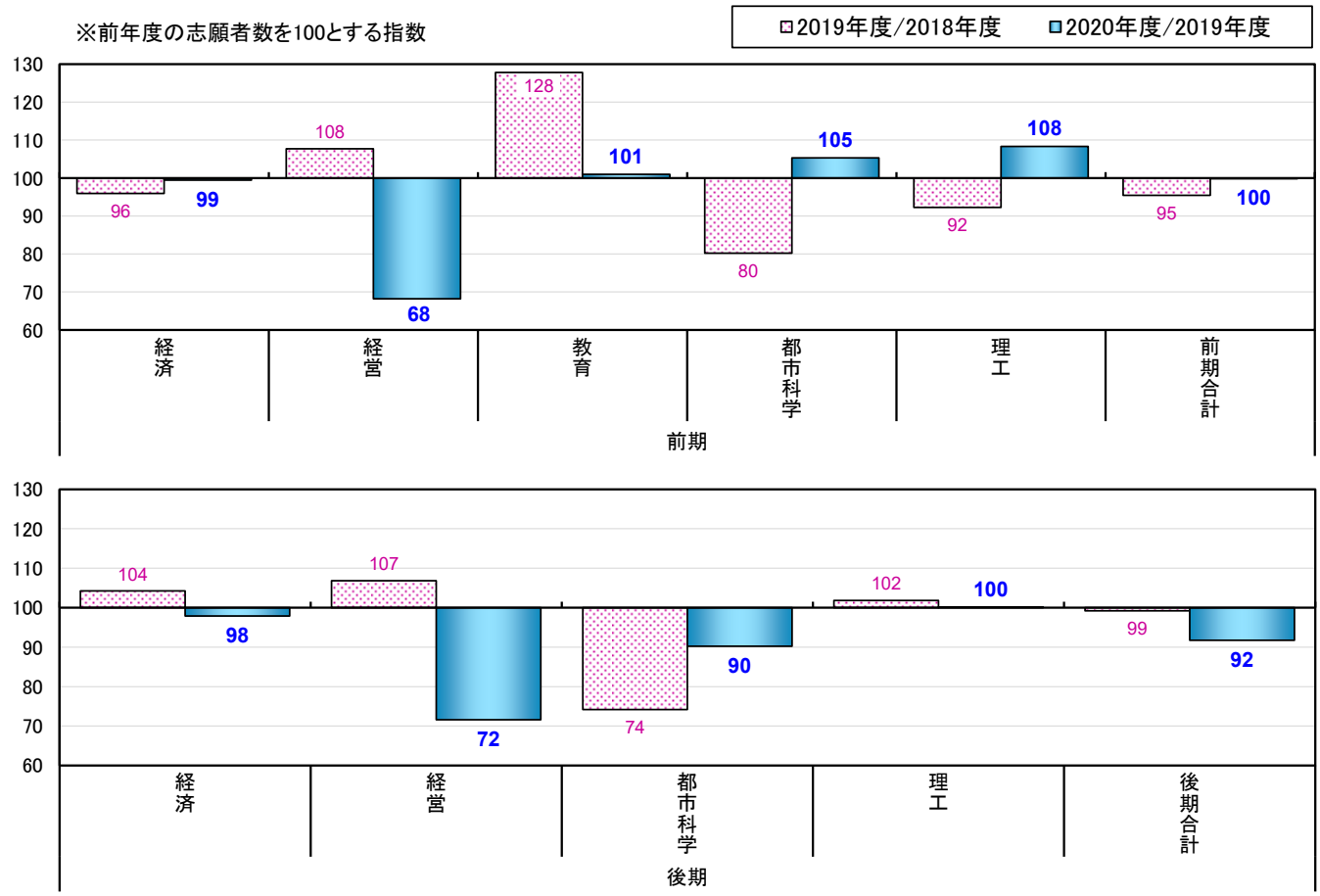


2020年度入試状況分析【国公立大】

横浜国立大：前期・後期ともに3年連続減少

前期：-5人 後期：-430人



入試変更点 個別：都市科学(建築、都市基盤)…数+理2((物 or 化 or 生)→2)+外→数+理2(物+化)+外

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は5人(100)のみの微減だが、個別試験を実施しない経営(68)は大幅減少。後期は430人(92)の減少で、前期・後期ともに3年連続減少。

＜前期日程＞

- 経済(99)は、微減だが2年連続減少。
- 経営(68)は、個別試験を実施しないので、センター試験の平均点ダウンの影響を大きく受けて大幅減少。
- 教育(101)は、前年度大幅増加の反動は見られず前年度並。コース別では、(学校教育/人間形成、教科教育)(99)は前年度並、(学校教育/特別支援教育)(129)は前年度半減近い大幅減少の反動で大幅増加。
- 都市科学(105)は、前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。学科別では、(環境リスク共生)(134)が前年度減少の反動で大幅増加したが、他の3学科は前年度並。
- 理工(108)は、2年ぶりに増加。学科・教育プログラム別では、(数物・電子情報系/物理工)(134)、(数物・電子情報系/情報工)(129)、(化学・生命系/化学・化学応用)(122)が大幅増加、一方で、(化学・生命系/バイオ)(56)、(数物・電子情報系/数理科学)(81)は大幅減少。

＜後期日程＞

- 経済(98)は、微減。2017年度以降、前年度の反動による増減が続いている。なお、第1段階選抜は志願倍率が12.5倍と実施予告倍率12倍を超えたが実施されなかった。
- 経営(72)は、増加で4年連続増加の反動と系統への人気低下により大幅減少、志願者数が900人を下回ったのは2004年度以来。第1段階選抜は志願倍率が9.0倍と実施予告倍率8倍を超えたが実施されなかった。
- 都市科学(90)は、前年度大幅減少に引続き減少。学科別では、(環境リスク共生)(136)のみが前年度ほぼ半減の反動で大幅増加、一方で(建築)(81)は大幅減少で2年連続減少となり、改組後では最も志願者数が少なくなった。
- 理工(100)は、微増だが2年連続増加。学科・教育プログラム別では、(化学・生命系/バイオ)(133)、(数物・電子情報系/物理工)(121)が大幅増加、一方で、(機械・材料・海洋系/材料工)(65)、(機械・材料・海洋系/海洋空間のシステムデザイン)(70)は大幅減少。